

本高の伝統行事 松の芽摘みが行われました

5月7日（木）第7限に、毎年恒例の松の芽摘みが行われました。

本校のシンボルといえば松と銀杏ですが、校名にもあるこの松樹が、学校を囲むように約二〇〇本以上植えられています。その手入れを、毎年この初夏に学校行事として行っています。これは旧本巢高校時代から続く伝統行事で、今年で五十回目を迎えました。

元々、この地に旧制本巢中学校が定められた際、生徒と教職員の手によって松の樹が植えられ、その後、多くの松が植樹され、それらの多くが樹齢約八十年だといわれています。

当日は、運動着に着替えた3年次の生徒と教職員によって、芽摘み作業と雑草の除去作業が行われました。そして、クラスの仲間と協働するよい機会にもなりました。

松の芽を摘む3年次の生徒

